

令和4年度 九州地方環境パートナーシップオフィス 九州地方ESD活動支援センター 運営業務計画



一般社団法人九州環境地域づくり

R3評価委員会での指摘事項：概要

評価委員の助言等	今後の対応方針（事務所作成）
全般 総合評価は「A」に近い「B」。昨年度に比較して充実した取り組み。成果報告では、結果が不明瞭。工夫を要する。評価委員が業務内容を把握する機会に乏しい。	・成果報告は簡条書き記載ではなく、業務目標と結果、地域課題解決に貢献した情報をわかりやすく記載。 ・評価委員会とは別に個説明の機会を設ける。
基本業務 ニーズに応じた講師対応やコンサルテーションに期待。企業とNPOをつなぐ具体例を増やす。環境カウンセラーの意識を高める役割を担う。地域メディアを通じた情報発信は意義深い。取り組みを南部に広げたことを評価。無関心層への広報のあり方では工夫の余地あり。	・ホームページ等での情報発信を強化。 ・相談者のニーズに応じた対応、支援。 ・企業とNPOのマッチング構築。 ・カウンセラーネットワーク連携強化。 →情報提供、情報収集、発信協力 ・カウンセラー×温防センター×指導者派遣制度。 ・間接的な無関心層へのアプローチ。
地域循環共生圏 関心の拡大から今後相談増加の予感。対応プレーヤーの増加が必要。島しょ地域の支援は期待に沿わない。リアルに伝わる報告の在り方を検討すること。森里川海会合は地域特性を踏まえた重点の置き方。	・基本業務の相談対応で取り組み支援。 ・相談者がSDGs普及・啓発や協働推進を担えるか検討。 ・成果報告資料の記載を改善。 ・地域特性を踏まえ、重点を置いた取組を検討する。
九州ESDセンター 学び合いプロジェクトを高評価。ビジョン策定では、今後の目標、基準をより具体化すること。ESDが理解しづらい。EP0との活動の区別も不明確。センター業務について、SDGs達成にESDが大きく貢献するものであることを全面に押し出す等情報発信を工夫。	・プロジェクト成果であるカリキュラムの汎用性を高める。 ・ビジョン自体に目標や基準を記載するのではなく、期限を決めた案件数の確保などの業務目標を設置。 ・Webサイトに「SDGsコンシェルジュ」のトピックページを作成。ESDがSDGs達成に資するものであり、EP0とセンターの役割分担を明記。

成果報告資料の記載について（評価委員の指摘を踏まえた改善）

- 【評価委員からの指摘】
- ・ 成果報告資料では業務を行った結果としてどのような成果が得られたのかが不明確であった。業務を行った結果どのような波及効果があったかを記載するなど、資料の作り方や成果の伝え方についてはより一層の工夫が必要と考えられる。
 - ・ 請負団体からの報告内容について評価するのが非常に難しいと感じた。評価の基準を見ると、評価Aは「十分満足できる成果が認められる」とあるが、そもそも成果がどのようなものか全く分からない。
 - ・ プラットフォーム事業について、活動団体にEP0九州がどれくらいの期間、どの程度支援を行ったのかが不明確である。また、活動の様子が資料や説明から伝わってこず、参加者の様子も目に浮かばない。印象に残ったシーンや手応えなど、リアルに伝わる報告の在り方を検討してほしい。

- 【課題】
- ・ 全体的な話として、現在の資料ではEP0九州が「やったこと」を簡条書きにしているだけであり、「EP0九州がいたからこうなった」という成果が書かれていない。例えばPF事業の成果ページについては、各団体の取組内容が簡条書きで示されているだけであり、各団体が当初どのような課題を抱えていて、EP0九州が支援をしていった結果、どのように課題が改善されたのかなどについては全く触れられていない。
 - ・ 令和3年度のEP0九州業務の目標は「SDGsを活用した地域課題解決への貢献」である。つまり、成果報告資料の書き方も「こういう業務を行った結果、このような形で地域課題解決に貢献した」という組み立てにすべきだが、そのような形になっていない。

第5期中期目標

・環境を切り口とするローカルSDGs(地域循環共生圏)・地域脱炭素実現に向けた地域課題解決への貢献

1, 基本業務 ローカルSDGsの認知度向上、ローカルSDGsに取り組む実践主体の増加

- ・そもそもSDGsを知らない者や、ローカルSDGsに取り組みたいがどうすれば良いかわからない者などを対象に、SDGsの普及・啓発やSDGsに関する情報発信・相談対応・助言等を実施する。

2, 地域循環共生圏推進 ローカルSDGs実現に向けた地域課題解決の取組の推進、モデル事例の創出

- ・多様なステークホルダーが連携して地域課題解決に向けて取り組もうとする地域の動きの加速化、伴走支援等

3, 九州ESDセンター 地域ぐるみのESD活動の推進による地域課題の解決に資する人材の育成

- ・ESD活動に関する情報発信、ESD活動推進に関する相談対応、地域ぐるみのESDモデル事例の創出・横展開

EPO九州・ESDセンターを一体とした運営業務

ローカルSDGs達成に向けた取組推進

基本業務 情報発信・コンシェルジュ機能のワンストップ化

地域課題解決支援

推進する人材育成

EPO九州

- ・地域循環共生圏推進
- ・森里川海ネットワーク
- ・金融機関等と連携した基盤強化

ESDセンター

- ・学び合いプロジェクトの推進
- ・地域ぐるみESD活動支援
- ・気候変動教育の推進

運営委員会・企画運営委員会

運営体制:スタッフ6名

九州地方環境事務所

運営団体

令和3年度 EPO九州業務一覧

1 基本業務 (一部ESDセンター業務を併用)

業務項目	主な取組
①横断的な情報の収集・発信 基本業務仕様書 ①②③ ESDセンター仕様書 ①③	地域循環共生圏ポータル機能の強化 地域の持続可能なせいに寄与するコンテンツ創出 脱炭素社会推進に向けた情報、ツールの発信 過年度連携団体情報の掲載 低関心層への間接的、直接的アプローチ 脱炭素教育、気候変動教育に関するツール、催事等のイベントの情報発信 地域ぐるみのESD活動モデル事例の収集を行い、広く地域に発信する。
②SDGs・ESDコンシェルジュ機能の強化 基本業務仕様書 ④ ESDセンター仕様書 ②④	ローカルSDGs推進に関するマッチング事例の創出 相談案件の蓄積と支援レポートの掲載 対応における外部アクターとの連携 ESD実践者の課題を把握し、適切な支援を提供する。 波及効果のある案件については、発信コンテンツとして取りまとめ、地域のESD推進を図る。
③EPOネットワークの活用 仕様書内容⑤⑥	GECC、地方EPOと連携したバリューの創出 全国EPO連絡会地方開催を九州・沖縄ブロックにて開催を担い、全国との連携を強化する。 開催予定地 沖縄県内

2 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

業務項目	主な取組
①地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務 仕様書内容①②③④⑤⑥	九州地方における地域循環共生圏の創造(構築・推進)に向け、プラットフォーム活動団体(PF活動団体)と連携し、モデル活動を展開。 業務の実施に当たっては、九州地方環境事務所地域脱炭素創生室、外部組織とともに、専門的知見を得ながら取り組みを推進する。 過年度ローカルSDGs推進に取り組んだ活動団体の、その後の進捗を把握し、オンラインヒアリングを実施する
②森里川海生態系ネットワーク形成会合 仕様書内容⑦	OECMの保護推進にかかわる地域において、ステークホルダーの連絡を促進する会合を開催する
③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 仕様書内容⑧	地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。